

EAST CLOUD

東中・校内研修

令和4年度 富岡市立東中学校
令和4年12月14日(水)
発行者:萩野裕介

校内研修だより No.



【研修テーマ】

『思考力・判断力・表現力を
身に付けた生徒の育成』

～1人1台端末の効果的な活用を通して～



～一人一授業⑤を終えて…!!～

黒澤先生、堤先生、三宅先生、ありがとうございました！**授業者の学び**はもちろんですが、**参観者の学び**も多かったのではないのでしょうか？今回は、今まで以上に外から参加して下さる先生が多かったですね！様々な立場からの意見が聞け、より学びになったのではないのでしょうか？一人一授業を「**作業**」とするのではなく、職員全体の「**トレーニング**」の場として、これからも活用していきましょう！！

先生方に提出していただいた「まとめ」から、特に大切だと思ったことを「**#研修のバトン**」としてまとめました。

【#研修のバトン】

・**chromebook** をあえて班で**1台にする**

→話し合いを活発にさせるため

・「**めあて**」や「**ねらい**」にそった**ICT利用**

→大切なのは分かっている。でも本当にそうなっているか??

・**ICTは授業や作業をしやすくするためのツール**

→「手段」なのか「目的」なのか・・・



※今回は、今までよりも「ICTの活用」について**高度な視点**が多かったです！

【国語・1年】黒澤 健太 1年1組教室

「**助言を自分の文章に生かそう**」

黒澤【国語】

付箋の色分け

付箋の色分けがわかりやすかった
 ジャムボードを使うことで、良い点、改善点が整理されていて、分かりやすかった。
色分けがシンプルでわかりやすかった

序論本論結論

良かった点はほとんどの班かたくさん出せていた。
 ジャムボードでも序論本論結論が分かれていて意図付けができていた
序論・本論・結論と分けて助言が集まり、見やすい

めあて

めあて→生徒の言葉を拾っていた
 生徒からの発信が多く、助言ポイントやめあてがつけられていた。
生徒の言葉でめあてを作っていた

指示を理解できず、自分の書評を読んで伝えている生徒がいた。
結論「さて」の使い方
 助言のポイントが明確でなかったため本時のねらいから少しずれていたように感じた。

話し合いの仕方

話し合いの進め方を決めるまでに時間がかかる班があった。
 発表の順番や、一人何分など時間制限を設ける。
話し合いの進行が、スムーズに行えていない、参加しそびれていた生徒がいた。

付箋について

付箋を誰が書いたかわからない→自分たちで名前を書いてある班もあった
 名前があることで責任感が生まれる。質問するときにも便利。
改善点が何について書けばよいか悩んでいる生徒が多かった。

付せんの文字数

付せんにキーワードのみ→その後の話し合いで説明
 何を書けばよいか曖昧な生徒が多かった（特に改善点）
助言のメインを「誤字脱字」にするか、「根拠等の内容面」にするか絞っても良かった

改善の仕方

「改善点をなんとかだそう！」と声掛けしてもよかったかもめあてを絞る
青付箋3つの場合どうすれば...
良い改善点を挙げている生徒を例に出す。
生徒は書評の改善の仕方を知っていたか
 既習事項の改善の視点などを手元で確認できるようにしておく

～12/12の指導案～

以下の方法で閲覧・ダウンロードができます（パソコン、タブレット、スマホ等）

①QRコードを読み込む

②リンク（URL）をクリック

※資料を保存している Google ドライブに接続されます。

https://drive.google.com/drive/folders/1oRJRNXEYyZ0UC530eAeTJfw4bmRJYMYk?usp=share_link



